

# 大飯1、2号機 廃炉へ

## 巨額投資を回避

### 関電、年内にも決定

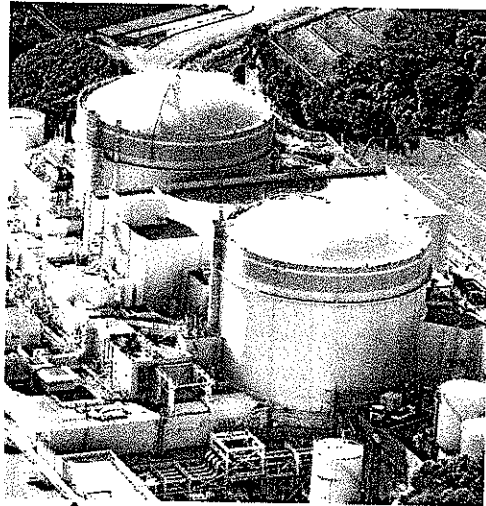
関西電力が大飯原発1、2号機（おおい町）を廃炉にする方針を固めたことが十七日、分かった。二基は営業運転開始から四十年弱が経過しており、最大六十年まで運転を延長するには巨額の投資が必要のため、再稼働を断念した。出力百万キロワット超の大型原発の廃炉は、東京電力福島第一原発を除けば全国で初となる。国や地元自治体との調整を進め、年内にも正式決定する。〔関連図面〕

政府はエネルギー基本計画で、他の大型原発で廃炉の「そつだ」。大飯1号機は一九七九年三月、2号機は同年十二月に営業運転を開始。出力はいずれも百十七万五千ワットで、二〇一九年に稼働から四十年を迎える。

大飯1、2号機は原子力規制委員会の審査に通れば、関西電力はいずれも福井県に、美浜原発1、3号機、高浜原発1、4号機、大飯原発1、4号機の計11基の原発を所有している。全て加圧水型軽水炉（PWR）で、現在は高浜3、4号機のみが稼働。大飯3、4号機は来年の再稼働を目指している。営業運転開始から40年を超えた美浜3号機、高浜1、2号機は、原子力規制委員会から運転延長の認可を受けた。一方、同じく40年を超えた美浜1、2号機は、出力が小さく採算が合わないとして、2015年に廃炉が決まった。

関西電力の原発

	出力(万kW)	現状	営業運転開始時期	
美浜	1号機	34.0	廃炉	1970年11月
	2号機	50.0	廃炉	72年7月
	3号機	82.6	再稼働へ準備	76年12月
高浜	1号機	82.6	再稼働へ準備	74年11月
	2号機	82.6	再稼働へ準備	75年11月
	3号機	87.0	稼働中	85年1月
	4号機	87.0	稼働中	85年6月
大飯	1号機	117.5	廃炉へ	79年3月
	2号機	117.5	廃炉へ	79年12月
	3号機	118.0	2018年1月に再稼働見通し	91年12月
	4号機	118.0	18年3月に再稼働見通し	93年2月



関西電力大飯原発1号機（手前）、2号機（おおい町）

四十年を超えて最長六十年まで動かせるが、安全対策には一十億円を超える追加

投資が必要になる。二基は事故時の冷却方法などで他の原発と構造が異なり、審査や対策工事に時間がかかる可能性もある。関電が保有する十一基の原発のうち、美浜原発1、2号機（美浜町）は廃炉が決まっている。高浜原発1、4号機（高浜町）など計七基は稼働させる方針で、安全対策に約八千三百億円を投じる。大飯1、2号機

が再稼働に加われば一兆円規模になる見通しだ。電力自由化による新電力への顧客流出や省エネの進展などで電力需要の伸びは見込めず、関電では「これ以上のコスト増に耐えられない」（幹部）との声が上がっていた。関電は高浜3、4号機の再稼働で、電気料金を抜本的に値下げしたが、顧客離れは続いている。火力発電

の燃料となる液化天然ガス（LNG）などの価格も数年前と比べ下がっており、以前ほど原発によるコスト削減効果が出にくい状況となっていることも再稼働の障害となった。関電は十七日に「（規制委に再稼働に向けた審査を申請する）準備をしており、技術面、安全面での検討を行っている」とのコメントを出した。

10/18 日誌